

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

人間形成コース／山崎 勝之

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

今年度の授業も、基礎から応用実践への流れを強調し、学校現場での授業が科学的根拠(エビデンス)に基づいて実践されることを眼目とした授業となる。私の授業は、子どもたちの健康と適応を予防的に守る教育にかかわるものとなる。このことから、エビデンスをもった学校授業や効果評価とする可能性に満ちた領域である。こうして授業は、エビデンスと科学的理論から教育実践への構成を貫徹し、新しい学校予防教育の実践者として活躍できる人材の養成にもつながる。

## 2. 点検・評価

中間報告以降、学部と大学院の授業を後期に実施し、後期も引き続いて、子どもたちの健康と適応を守る学校予防教育を中心に、科学としての教育のあり方、そして科学的に教育を構築して実践することの実際までの筋道を明示した。

またこの間、将来学校の教壇に立ったとき、数ある教育問題に遭遇することを想定し、自ら考え、自ら教育を構築する力を養うことに心がけた。この力を育てることは、大学教育の最難関になるが、このことに真っ向から取り組む授業となった。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

本学は、学部生も大学院生も、主たる就職希望先は学校教員となる。そのため、大学ならびに大学院本来の研究姿勢を尊びながらも、この就職希望を意識して、研究、勉学と両立できる体制を整えたい。また、ゼミを中心に、学生に対しては個を見ることができ環境にあることから、健康面でも、本人の興味面でも、個人差を十分に考慮した支援を行うことを心がける。

## 2. 点検・評価

今年度の修士の最終学年生は全員就職先を探す必要のない学生たちであったが(現職教員等)、いずれも希望する予防教育にかかわる研究活動ができ、水準の高い研究が完成された。一人は、元徳島県警サポートセンター所長として非行予防教育を、一人は、東京都の現職教員としてかねてより興味をもっていたうつ病予防教育を、今一人は、管理栄養士としてライフワークである食育の分野で研究を進めた、といった多彩な研究状況であった。

下の学年の修士学生はいずれも長期履修生で、学校教員を目指している。そのことから、修士課程での研究と教員採用試験を中心とした進路への準備活動の支援を順調に進めた。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

研究は、予算措置のある3つのプロジェクトを主とする。まず科学研究費による研究であるが、本年は3年間にわたる研究の最終年となる。これは、感情と健康の関係にかかわる基礎から応用研究までをカバーする研究で、研究成果報告書の作成をもって完成年としたい。次に、予防教育科学教育研究センターの概算要求事業にかかわる研究で、健康と適応のためのエビデンスをもった学校授業の開発と普及に努めたい。最後は、2年目を迎える連大の共同研究プロジェクトの研究である。世界の予防教育にさらに広くふれ、日本の予防教育との比較の中、今後の予防教育のあり方についての考察を深めたい。

## 2. 点検・評価

中間報告のように、科学研究費による研究、概算要求事業による研究、そして、連合大学院の共同研究プロジェクトの研究の3つの柱となる研究を2011年度において順調に遂行した。このうち、科学研究費による研究は研究の最終年度として研究を終えた。その成果は、学会発表や論文発表の他、「Prospective and Intervention Research on the Effects of Affect Balance and Emotional Suppression on Health and Life Satisfaction」と題した英文報告書としてまとめている。概算要求事業による予防教育もその後順調に進展し、ベース総合教育の完成から最終目標である広域での継続実施に向け、来年度の実施学校として15校ほどを順調に決定し、来年度への円滑な移行を終えている。また、「予防教育科学に基づく『新しい学校予防教育』」の書籍(報告書)も出版された。また、連合大学院の共同研究プロジェクトでは、そのまとめとして「世界の学校予防教育」(仮題)の書籍原稿もほぼ集まり、出版にむけて順調に進展している。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

大学運営でもっとも重要なことは、第2期中期目標の重要事項の1つである予防教育科学ならびに関連した概算要求事業を順調に遂行することである。これは、予防教育科学教育研究センターが担っている業務となり、センター所長としてその舵取りを首尾よく行うことが大学運営にかかわる重要事となる。

## 2. 点検・評価

順調に概算要求事業の2年目を終えた。計画どおりの進行で、中核となる教育の完成と、広域での継続実施の最終目標に進む前年度(2012年度)の実施校も順調に決定した。この間、予防教育にまつわり大学としての広報活動、教育委員会との連携など対外的な活動を順調に進め、大学運営に多大な貢献をもたらしたものと判断される。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

今年度も、昨年度同様、概算要求事業における学校予防教育の開発と実践にあたり、附属小中学校とは、これまでにはない濃厚な交流を行う。また、鳴門市や徳島市の小学校においても同様の活動を行う予定である。また、その授業においては、国内にととらず国際的にも共同が必要になり、アメリカやイギリスでのシンポジウムや学会発表を予定し、多彩な国際交流になる予定である。

### 2. 点検・評価

附属小学校での授業実践に続き、附属中学校での授業実践も順調に終えた。また、鳴門市と徳島市の学校での実践に続き、阿南市の小学校での実践も終えた。徳島県教育委員会ならびに鳴門市教育委員会との共同のもと、順調な動きである。国際交流も上記のとおり、順調に終え、来年度日本で開催する国際会議も予定どおり決定した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本学の予防教育の実践と展開は、徳島新聞や教育新聞にも取り上げられ、徳島県内外で注目を浴びている。予防教育の授業には、徳島県教育委員会、藍住町や阿南市の教育委員会からの視察もあり、その注目度は高まりつつある。この結果、2012年度における教育実施校が順調に決定し、鳴門教育大学ではかつて経験したことがない大規模な直接連携が開始する。